

## 女子部・男子部

### 生徒主体の学校改革

更科幸一

2018年度から開始した学校改革は、22年度は4年目を迎えた。21、22年度は、24年度からの共生共学化に向けて、建物や生活などさまざまな面のデザインを生徒が主体となって考え始めた年となった。時間はかかりつつも、少しずつ進んでいる状況だ。特に生活面については、制服、委員組織など、生徒主体で考える項目があるが、生徒からは「学校ではどこまで決めているのですか？」という質問が出ることもあった。これまでも学園は「生徒が学校をつくる」と言ってきたが、実は決まった範囲のこと、これまで行われてきた生活を「続ける」という部分でしか「つくる」を体験させてこなかった。今ないものを創造していくということについて、それを自分の頭で考えて創り出すのだ、と理解している人としていない人がある。教師も、「ここは教師が中心になって考えるが、ここは生徒が一から最後まで考えてほしい」という線引きをきちんと伝えるべきだったかと反省している。自分の頭で考えて、周りとは協働して生活を創り出すことが、自治社会で身に付けてもらいたい力だからだ。

#### 1男子部校舎改修(体育館を多目的スペースに)

2018年に開始した学校改革では、24年度の共生共学化に向け、校舎も中高一緒の新校舎を建設する構想もあったが、遺跡発掘調査の時間・費用等の問題があり、新校舎建設の準備が整うまでは既存の校舎の改修で対応することになった。24年度からは、現男子部校舎を中等科、女子部校舎を高等科校舎とする。最初の改修として、男子部体育館改修が2022年10月11日に着工した。改修計画には生徒が主体的にかかわった。2019年より「良いデザインとは何か」という探求テーマを掲げ、男女共に学びの空間について考え、東京理科大学の垣野義典氏や実際の設計を担当した堀場弘氏(シーラカンズ K&H 代表)などの協力も得て、進めた。開放的な空間内には2つの教室や多目的に使えるオープンスペースなどを備え、使い手が用途に応じて自由に家具の配置も変えられるデザインとなった。ロッカーの扉には、名栗の植林地や学内で切り出された木材を使用し、生徒、教職員が製作した。2023年3月4日の「学びの共有会」では、オープニングイベントを下記のプログラムで開催した。

「学びの空間をデザインする。誰もが自分らしく学べる空間とは？」

#### 第1部 プレゼンテーション

校舎改築プロジェクト参加生徒・卒業生  
堀場弘氏(シーラカンズ K&H 代表)

#### 第2部 パネルディスカッション

生徒・卒業生・教員・堀場氏・垣野義典氏(東京理科大学理工学部建築学科教授)

#### 第3部 見学/ブース展示

#### 2共学化係

2022年冬に、当時高等科1年だった女子部生徒から、自分達が高等科3年になるときに共学化されるが、男子部の人たちがどう思っているのかを聞きたいという声があがり、同年12月に男子部高等科1年の担任に相談、男子からも4名が加わり8名で活動を開始した。

当初はまずはお互いを知る、親睦を深める、などを目的に交流会などを実施したが、話し合いを重ねる中で、女子部・男子部の学校生活がかなり異なることがわかった。そこで、共学化に向けて、新しい学校生活のルールや運営方法を決めたほうがよい、そのためには他学年からも係を募った方がよいのではとなり、年度末に各学年から3~4名の係が出る事となった。この係を中心に2023年度は委員会組織やその他自治生活にかかわることについて話し合いを実施する予定である。

#### 参考文献

・「共学へ校舎再編」『学園新聞』第731号。「共学の学びの場 多目的に使える空間に」『学園新聞』第735号。

・「生徒がゼロから学校生活の仕組みを創る!! 共学化に向けた合意形成の試みをレポート【共学化への道・生徒編】」note 記事

([https://note.com/re\\_jiyu2024/n/nb87f64808849](https://note.com/re_jiyu2024/n/nb87f64808849) 2023年8月4日参照)